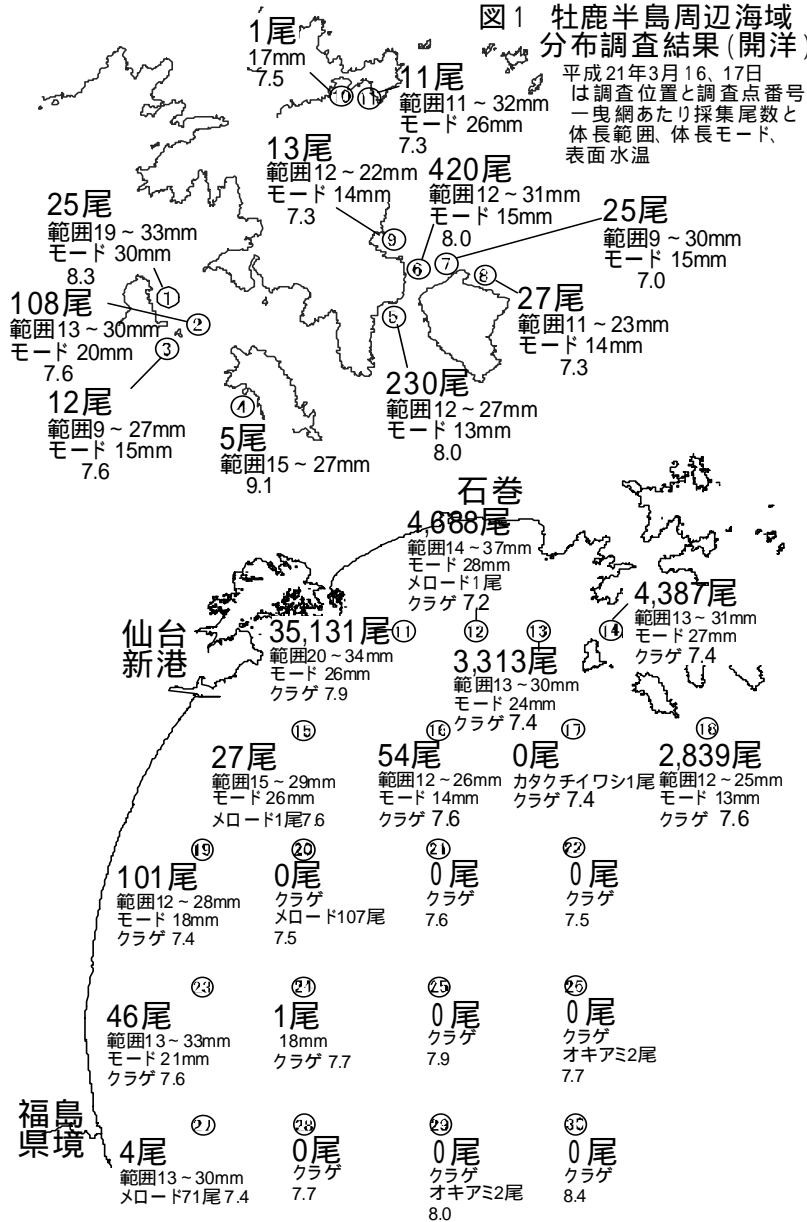


コウナゴ漁期前調査結果

平成21年3月16日～18日のコウナゴ分布



平成21年3月16日から18日にかけて、県調査船「拓洋丸」により、仙台湾内20調査点において、開口板を使用した中層曳網(水深10m層10分曳)によりイカナゴ仔稚魚の採集を行いました。また、調査船「開洋」により、牡鹿半島周辺海域11調査点において簡易型中層曳網(表中層10分曳)によりイカナゴ仔稚魚の採集を行いました。

牡鹿半島周辺海域では、昨年の平均採取数(183尾)と比べ全般的に採集数が少ない結果となりました(80尾)。採集された仔稚魚の体長は9mmから33mmの範囲で、モードは18mmとなっていました。調査時の表面水温は7.0から9.1の範囲で、昨年3月の調査時(7.6から9.4)と比べ低くなっています。また、主要な調査点での透明度は2mから8mの範囲でした(図1,表1)。

仙台湾海域でも、全般的に採集数が少ない結果となりました。このうち仔稚魚が高密度で採集されたのは、波島沖水深23mの調査点11番でした。仙台湾南部の水深30m以深の海域では、コウナゴが採集されませんでした。

仙台湾全域の仔稚魚の体長は12mmから37mmの範囲で、21mmが主群になっています。調査時の表面水温は7.2から8.4で、牡鹿半島周辺海域と同様に昨年3月の調査時(7.5から10.2)に比べ水温が低くなっていました。主要な調査点での透明度は、4mから10mでした(図2,表2)。

図2 仙台湾分布調査結果(拓洋丸)
平成21年3月16日～18日 は調査位置と調査点番号
一曳網あたり採集尾数と体長範囲、体長モード、混獲物、表面水温

表1 牡鹿半島周辺海域層別水温、透明度

調査点	2	6	11
観測年月日	2009/3/16	2009/3/16	2009/3/17
観測時刻	10:44	14:00	12:03
透明度m	2	4	8
水 0m	7.60	8.00	7.30
深 5m	7.06	7.40	7.67
別 10m	7.03	7.15	7.44
水 20m	7.15	7.00	7.11
温 30m	6.64		
℃			

表2 仙台湾海域表面水温、透明度

調査点	14	19	22	24	27	30
観測年月日	2009/3/18	2009/3/17	2009/3/16	2009/3/17	2009/3/17	2009/3/16
観測時刻	10:27	10:03	10:40	13:33	11:53	12:29
表面水温	7.4	7.4	7.5	7.7	7.4	8.4
透明度m	4	6	8	8	9	10

2007年 2008年 2009年

2007年				2008年				2009年			
日	1月	2月	3月	日	1月	2月	3月	日	1月	2月	3月
1	S	N	N	1	S	D	N	1	SE	N	E
2	S	D	N	2	D	E	D	2	E	S	D
3	E	N	S	3	D	E	N	3	E	N	N
4	S	N	S	4	S	-	S	4	E	N	-
5	S	N	-	5	S	N	SE	5	E	N	D
6	S	N	-	6	S	E	D	6	E	D	D
7	S	N	N	7	S	D	N	7	E	S	-
8	S	N	N	8	S	D	SE	8	S	N	S
9	S	D	N	9	S	S	SE	9	S	N	D
10	S	N	N	10	S	S	N	10	-	-	SE
11	S	N	N	11	S	-	N	11	S	N	E
12	S	N	-	12	-	D	SE	12	N	N	N
13	S	D	N	13	-	-	N	13	N	E	D
14	S	N	N	14	S	D	N	14	S	-	-
15	S	N	N	15	-	S	-	15	D	N	N
16	S	N	N	16	S	E	SE	16	E	S	N
17	E	N	N	17	N	D	N	17	N	S	SE
18	S	N	N	18	D	N	N	18	S	D	N
19	F	S	SE	19	-	N	S	19	N	D	-
20	S	E	N	20	D	SE	N	20	S	D	-
21	S	S	N	21	-	D	-	21	N	E	-
22	D	N	SE	22	N	D	E	22	-	N	-
23	N	SE	SE	23	N	N	E	23	-	S	-
24	S	N	SE	24	-	N	E	24	-	N	-
25	SE	D	-	25	N	-	E	25	D	-	-
26	S	N	N	26	S	-	N	26	D	-	-
27	N	N	SE	27	D	E	-	27	D	N	-
28	N	S	-	28	D	D	-	28	N	-	-
29	N	-	-	29	D	N	-	29	N	-	-
30	N	-	-	30	-	-	-	30	S	-	-
31	N	-	-	31	D	-	-	31	-	-	-

型	頻度 %
S	25 31
N	41 51
E	4 5
SE	6 7
D	5 6
計	81 100

型	頻度 %
S	17 24
N	21 29
E	9 13
SE	6 8
D	19 26
計	72 100

型	頻度 %
S	12 19
N	23 37
E	11 18
SE	3 5
D	13 21
計	62 100

漁期前における沖合水の影響

本年漁期前の仙台湾に流入する沖合水の出現状況の特徴は、1月7日までは沖合暖水が東から流入するE型が多く、その後は沖合水の流入が明確に確認されないN型が多かったことが挙げられます。3月に入ってからも依然その傾向が継続しており、今後の沿岸暖水の北上や親潮の南下動向によっては、沖合水の影響を受ける可能性もありますので、漁場の形成条件は日々変わることをご考慮のうえ、調査結果を参考にして下さい。

